課題に取り組む⑧

シリーズ～築く～

2010/11/7
初代教会の課題

- グループ間の不公平
- 異邦人クリスチャンも律法を守るべきか
- 伝道が育成か（パウロとバルナバの対決）
- 新しく生まれた教会の教育
  - 分派・不道徳・無秩序・混乱
  - 異教社会での信仰生活
- 迫害（殉教）
- 異端
現代の異端

■ 統一協会
  ■ 文鮮明を再臨のキリストとし、十字架で挫折した神を救う
  ■ マインドコントロール・合同結婚式・霊感商法

■ モルモン教
  ■ 「モルモン経」を聖典とする多神教
  ■ 完全な行いによる救いを目指す（律法主義）

■ エホバの証人（もののみの塔）
  ■ 自分たちの教えに合わせた「新世界訳聖書」
  ■ ハルマゲドン・強制伝道・輸血拒否
初代教会の異端「グノーシス」

「グノーシス」とはギリシャ語で「知識」「認識」
● ギリシャ哲学の影響を強く受けた思想
● 人間は「グノーシス」を持つことで救われる
  ● 人間の知性を過剰に評価
● 徹底的な「二元論」
  ● 霊は純粋で善、物質は堕落した悪
● ゆがんだ創造論
  ● 世界は下位の支配者たちによって創造され、統治される「広大な牢獄」
グノーシスの問題

- キリストは「グノーシス」をもたらした「覚醒者」
- イエス・キリストを受肉した神としない
  - 肉体は悪であるので、キリストは人ではない
- キリストは人のように見えただけ：「仮現論」
  - キリストが私たちと同じ人となり、私たちの身代わりとして罪を背負って十字架で死なれた、という最も重要な真理を否定した！
- かたよった信仰生活
  - 苦行禁欲か快楽主義か
異端がもたらしたものの

- 新約聖書（聖典）の成立
  - 信仰の土台となるものは何か

- 教え（教理）の確立
  - 神はこの世界を創造し、支配しておられる
  - イエス・キリストは人となられた神であった
  - キリストの十字架の贖罪死によって救われる

- 教会の自律
  - この世の模範となる人であり集まりであること
「あのむなし、だましごとの哲学者によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。そのようなものは、人の言い伝えによるものであり、この世に属する幼稚な教えによるものであって、キリストに基づくものではありません。キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。」